上部消化管内視鏡検査（経口）についての説明書および同意書

目　　的

上部消化管（食道、胃、十二指腸）には、いろいろな病気が発生します。消化管の病気の診断方法として、以前はバリウムを用いたレントゲンによる診断法が主でしたが、近年、内視鏡検査の診断能力がすぐれていることが明らかとなり、当院では上部消化管検査には、内視鏡をおすすめしています。内視鏡で直接観察することによって、より小さな病変を発見することができ、同時に病変の一部を採取して顕微鏡で検査（生検）することもできます。さらに出血等緊急的な処置が必要な場合、その場で処置することも可能です。

方　　法

内視鏡検査の前に、胃の粘液と泡を消す薬を飲んでいただきます。ついで表面麻酔剤を含んでいただき咽頭（のど）の麻酔を行い、また消化管の動きを押さえる薬を注射します。身体の左側を下にして寝ていただいた後、内視鏡検査を開始します。検査に際しての痛みはさほどありません。楽に検査を受けていただくために重要なことは、できるだけ身体の力を抜いてリラックスしていただくことです。また検査中に唾液が気管に入るとせき込みますので口にたまった唾液は飲み込まずに、口から流し出すようにして下さい。検査中、呼吸は普段と同じようにできますが、ゆっくりと鼻で呼吸をしていただくと唾液が気管に入りにくくなり、また観察もしやすくなります。検査時間は通常 7-8 分前後で終了します。何か異常が見つかった場合はさらに詳しく調べるために、もう少し時間が長くなることもあります。

注　意　点

(1)　上部消化管内視鏡検査は安全な検査ですが、0.007%（10 万件に 7 件）の頻度で、粘膜の損傷、出血、穿孔、薬剤に対するアレルギー反応など、処置を必要とする合併症が報告されています。検査医はこのような合併症が起こらないよう細心の注意を払っておりますが、万一、合併症が生じた場合には、最善の処置を行います。

(2)　検査中の鎮静剤の使用を希望される方には、うとうとする程度の鎮静剤投与を検査前に静脈注射で行います。検査後は眠気が残りますので、30 分～１時間程度、院内で休憩をとっていただきます。また判断力が低下することがありますので、検査当日の運転はできません。ご高齢の方にはご家族の付き添いをお願いいたします。鎮静剤を使う場合は血管確保（留置針にて）をした上で検査をさせていただきますが、時として、この部位が後で皮下出血で青くなることがあります。これは自然に消退しますのでご心配いりません。

(3)　検査当日に、来院時間が遅れそうな場合は、早めにご連絡をお願いします。
検査開始予定時間に 15 分以上遅れられた場合は検査できないことがあります。

〈　検査日時　　令和　　年　　月　　日　　時　　分〉

説明医師：　坂下正典

私は上部消化管内視鏡検査の目的、方法、注意点について、上記の内容を了解しました。

◎　鎮静剤の使用を（　希望します　・　希望しません　）

※鎮静剤の効果には個人差があり、結果的にご希望に添えない場合のある事をご了承ください。

◎　令和　　年　　月　　日

住所　〒　　－

氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

親権者または代諾者氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　続柄（　　）

坂　下　内　科　消　化　器　科